

**\* ボールル (NIA 助成) とサムラング (重松資金) 短期技能研修 \***

< ほぼ全員求職中 >



アトゥモロックのスタッフハウスにて、電気配線を実習する研修生

数名の就職組 (注文を受けて料理の出前や、配線工事を請け負うケース) に対して、大部分は、「研修修了証」と「短期集中型実習の実績」をもって求職活動中です。ミンダナオは就職難で、町の事業所での雇用は至難です。親を手伝い、山のわずかな畑を耕すという潜在失業の状態に戻る者が多いようですが、全員のフォローアップができていません。2年間で90%の就職というメイトン神父の目標達成は無理としても、サムラング研修で習得した農業機械操作は地域で生かせる技能ですので、頑張っって欲しいと思います。

**\* モロココミュニティ地域医療推進プロジェクト (中田資金) \***

資金のあてがなく延期やむなしと前号でお伝えしたモロココミュニティの地域医療推進プロジェクトを、会員の中田さんのご協力で実施できることになりました。 Dengue熱とマラリア患者が多く出ている村では、すでに本事業の巡回診療予算で対応しています。

7月20,22日には、栄養失調の子どもの支援と指導のために、乳幼児の体重測定を実施、虫下しも飲ませました。今後はヘルスワーカーの知識と技能を向上させるための研修などを実施します。

設備の整った病院に入院できない貧しい住民は、病気になったら終わりです。病気にならないように、病気が重くならないように、村ぐるみで取り組む事業です。



事業を担当する PIHS 責任者ナブサさん (左) と2名の熟練ヘルスワーカー  
2003年FRN助成で開設した鍼灸院看板の前で

**\* 持続可能な少数民族未就学児童のモスン教育 (ひろしま祈りの石国際教育交流財団助成事業) \***



昨年度事業で購入した丸木舟 (少女が乗っている一艘)。漁業と農産物輸送などに使用。

レイクセブ町トウバトゥ (ツバツ) とバサグ・ノフォークの2地域で実施中のモスン教育事業も2年目を迎えました。そのため、次年度からの運営を支える自主財源を生み出すことをめざして「持続可能な」と名づけました。

子どもたち一人に一羽配布された鶏は次々雛を孵し、成長した若鶏の一部を学校運営用に納入します。残りは自家用です。

母親と子どもたち、ハイスクールの勤労学生によって良く手入れされた菜園には、キャッサバ・タロイモなどの根菜類、モンゴ豆・ナスなどの野菜が順調に育っていました。今は自給用ですが、これも将来の自主財源として期待されています。

遅れていたチボリ語併記の教科書作りも、シェリルさんが新たに執筆者として加わり、体制を整えて、テーマごとに月2-3冊ペースでの完成を目指しています。

7月訪問時には子どもたちは完成したブックレットを持って迎えてくれました。(写真右)

本年度のモスン教育児童は110名。教室はそれぞれの地区に小さな建物が一つあるだけですが、湖、畑、山で汗を流しながら基礎学力速習と生きる知恵・力を身に付けます。

